

### 3. この世はぜ～んぶ紙芝居！      アーサー・ビナード

今日持ってきた紙芝居は丸木俊さんが連作として作った原爆の図という素晴らしい絵をもとに作ったものです。原爆の図の作品の遺伝子を組み替えて紙芝居を生ませた。原爆の図は原爆のことだけを描いているわけではなく、生き物の図とか、森羅万象の図といっても大げさではない多様性を含んだ作品です。全部で15点あります。核分裂の連鎖反応によって引き起こされる現象と生物である人間、他の動植物とどういう関係にあるか影響を受けるかということテーマにして、そして雄大な連作を作りました。

丸木さんらは紙芝居が生まれることは予想していない。その絵の中には豊かな具体的な表現がたくさんあって、それをもとにすれば、僕は紙芝居が作れると思いました。紙芝居と絵画は違う。紙芝居は舞台という装置があります。順々に絵を見せながら演じるんです。絵はスッパッと抜くときもあれば、じらして抜くときもある。紙芝居の絵は埼玉にある丸木美術館の絵とは違う。紙芝居は仕組みだし、表現としても同じにならない。いろいろな工夫をして絵から切り取られます。切り取って変化させて、必要な情報を盛り込んでいく。原爆の図は紙芝居になる。これはゲノム編集そっくりだ。7年かかってようやくできた。それを今日、皆さんに見ていただきたい紙芝居です。紙芝居は90年くらいこのメディアが続いていて、世界でも優れたメディアだと思います。日本にしかない。僕が紙芝居に出会ったのは日本に来てからで、池袋図書館でした。日本語を昔話や絵本から覚えようとして紙芝居と絵本の読み聞かせがあって参加しました。

#### 1) 紙芝居始まり始まり

(1枚目) ちっちゃな声。「はじめまして ぼくのなまえは くる 君は人間だな ぼくの ことば わかるかい それはよかった ねこの 話を分かってくれない人間はうちのねえさんくらい

(2枚目) くらちゃん おはよう おなかがすいているでしょ まいあさ姉さんがごはんをつくってくれる それから市場にでかけるんだ 魚を売るのが姉さんの仕事 おととし結婚したよ でもだんなさんは すぐ日本軍の兵隊さんになって ぜんぜん帰ってこない そのうち赤ん坊が生まれたんだ

(3枚目)  
うちのじいちゃんは もう兵隊にはなれないけれど しょっちゅう戦争いかんで 戦争のうたをうたう 赤ん坊にうたう子守唄も こんなかんじ ぼうやねんねねんねしな とうさん強い兵隊さん ねんねねんねすりゃ おみやげくれる 機関銃と鉄かぶと 機関銃と鉄かぶと じいちゃんの声大きいから 僕は庭にでて 空を見上げるとくんくんくんくん はとがまいおりてきた

(4枚目)  
くーすけじゃないか はとのくーすけは 時々うちにとんできて ニュースを教えてくれる 今日広島隣のまち 呉のまち たいへんだよ 呉のまちはまっかっかあめりか軍の飛行機がどンドン爆弾おとして めらめら燃えている 今度は広島におとされるかも

(5枚目)  
はとは爆弾おとさない ねこも爆弾おとさない 生き物はみんなおとさない 人間だけだな 爆弾を作っておとすのは どうしてだろう 人間のからだだって ねこやハトとみんな同じ みんな細胞でできている ねー 体のちっちゃな細胞 君はみたことある？ みてみようか さあ 目を見開いて

(6枚目)

ぐぐぐーと100倍ちかく 1000倍大きく 大きくグーっと1万倍 きれいだろ  
細胞たちが集まって ズンズン働いているんだ じーっと耳をすませば 聞こえるは  
ず ずんずん ずんずんずずん ルンルン ちっちゃな細胞の声 ズンズン ルンルン  
ズズズン ルンルン 生きている細胞が ずーっと新しい細胞つくるから きみもぼく  
も ずーっとずーっと生きているんだ

(7枚目)

耳も細胞 目も細胞 口びるも細胞 ねこもぜんぶ細胞 細胞がつくってくれる 眠  
っているあいだも 赤ん坊の細胞はいい声をだしているよ 聞こえるかな ズンズン  
ルンルン ズズズン ルンルン 今日は1945年8月6日だ 赤ん坊の1才のたん  
じょうび ねえさんが朝ごはんをつくっている じいちゃんはうたっている 坊やね  
んね ねんねしな とうさん良い兵隊さん その時  
いきなりピッカ

(8枚目)

太陽より100万倍もまぶしいのが キリキリキリーとささってきた その時のしゅ  
んかん

(9枚目)

ゴゴゴー ガッシャー いたい 助けて つぶされる 姉さんと赤ん坊が とじこめ  
られて動けない

(10枚目)

おーい つかまれ おーい わしの手をはなすな じいちゃんひっぱる ひっぱる  
けど もう大やけど 助からない

(11枚目)

ねこのぼくだけ にげて助かった きみは人間だから知っているよね 日本人は他の  
国に爆弾おとして殺した アメリカ人は爆弾をいっぱいおとした でも広島におとし  
たのは普通の爆弾ではなくて げんし爆弾だ げんし爆弾は

(12枚目) 新しい殺しかた ジリジリ ジリジリ あとからあとから殺される 細胞  
こわす毒がそらからふって 土にもぐって からだの中まで 送り込む 助かっても  
次の日も次の日も

ジリジリ ジリジリ ジリジリ

(13枚目)

広島のみちはずれで いぬがはなをクンクンさせている ぼくは家族をさがしている  
んだ みんなどこへいったんだ クンクン クンクン 見つからない いぬのはなに  
ジリジリ ジリジリ 潜り込んでくる ぜんぜん匂わない からだの仲間で ジリジ  
リ ジリジリ いったいどうなるの

ちっちゃい細胞たちよ みてみようか さあーっ目を見開いて

(14枚目)

グルグルーと100倍大きく 1000倍大きく 大きくグルー万倍 細胞は見える  
けど元気じゃない 新しい細胞がもうつukれないんだ 僕の脂肪もジリジリ ジリジ  
リ こわされている

(15枚目)

からだのちっちゃな声は止まって消えた えー君の中でちっちゃな声が聞こえてる  
君の細胞たちはみんなげんきかい

(16枚目)

ズンズン ズズズンズン ルンルン もし細胞の音がすると聞こえていたら ズンズ  
ン

ルンルン ズズズンズン ルンルン 君はきっと生きていけるんだ

おしまい

この紙芝居は主人公と語り部が決まるまで長い道のりがあった。主人公は誰だと思えますか。僕の中では猫は主人公ではなく、語り部はナレータ、細胞が主人公です。人間含めてみんなの命のもととして細胞が主人公と思っています。細胞の絵は丸木さんの絵には出てこないの、元になった絵は梅の花なんです。つぼみがいっぱいあって、それをもとに絵を工夫して色書いて作りました。紙芝居を作る作業は科学技術で例えれば新しいクリスパーキャス9をみつけるとか、ゲノム編集を確立するとかどこか共通点があると思う。やってみないとわからないとか、やってみたらできた、できたらそれがどういう影響があるかというところにつながるか？

## 2)生き物は爆弾を落とさない 人間だけが爆弾を作って落とす なぜデュアルユースをやるのか

今日の話の流れの中で、この紙芝居で気づくことはデュアルユースです。この紙芝居の猫が言うんです。はとは爆弾を落とさない。ねこは爆弾を落とさない。生き物はみんな落とさない。人間だけが爆弾を作って落とす。どうしてだろう。細胞レベルで言ったら人間も他の生き物も同じなのに、なんで人間はデュアルユースをやるんだろうか。技術を使って大量虐殺する。すさまじい環境劣化、生命の営みに逆行する形で生命の営みを利用する。それがたぶん人間だけが抱えている問題です。それが問題としてとらえることができるためには人間ではない目が大事であるものとしてねこが語り部としてある。ねこが語ると、あっーそうだと人間だけだなーと。人間もねこの視点を通して見通すことができます。

もうひとつ、人間はしょせん細胞からできた生き物である。意外と自分たちが生物であることを忘れていないか。人間って自分だけはどうにかなる、科学者は特にそうだと思う。自分たちが物理に夢中になっていると、自分がウランとかプルトニウムとかセシウムとかにわたりあえる存在だと勘違いする。違う。細胞でできている説が核分裂の連鎖反応によって作られる物質を付き合えるわけがない。でも何となく自分たちが使える技術だと使える側にいられる。いい気になってしまう。科学者はその度合いが特に強い。

そこがもう一つ紙芝居のテーマかもしれない。細胞の元気な夢が響いているときは、生命が維持されて元気にいろいろなことができるが、ちょっとしたことで細胞がむしばまれたり力を割かれたりするとたちまちダメになっていく。語り部になったネコもそういう風になる。原爆が池内さんのお話に合った第二軍事革命とするならば爆発後の次の人か1週間後に愛する人を探すために現地に入った人の被ばく。これが新しい殺し方を今日テーマに合わせて翻訳すると第三軍事革命の始まりかもしれない。環境を破壊し、細胞を、生命をむしばむ低線量被ばく、内部被ばくが第三軍事革命に入る入り口かもしれない。核開発はすさまじい破壊力を持つ中心となりますが、核開発を行った専門家、科学者、軍人、政治家は最初から人体実験も行う。核開発にかかわる労働者をハツカネズミのように被ばくさせて、どのくらい人体に影響が出るか、それがウラン濃縮の夏季から続いています。実験の段階でも自国の人にも被ばくさせて意図的に殺傷させて調査している。マラリアを媒介するといわれている蚊と同じで、蚊が悪いわけではない。蚊はただ生活を営んでいるだけです。悪いのは刺される人がいるからです。蚊と同じレベルで長崎、広島の人、アメリカ市民が扱われています。核開発はそれを最初から孕んでいます。そうでないとできないものだった。僕らが今生きている時代は、その核開発を

経て、第三次軍事革命に飲み込まれて、一億総実験動物となっています。原爆の悲惨さを伝える美術作品として原爆の図があるといわれるが、生き物のすばらしさ、生き物の生命をむしばむものにさらされたとき、うなるか、どうするかということをいろいろな側面から表現を使って探った作品です。原爆の悲惨さが主題ではない。でも原爆の悲惨さは生命を語っていく中で必ず出てきます。質の悪さ、そういうものを含めて伝えようとしています。

### 3) 科学技術は絵に描いた餅 生き物、環境を劣化させる それを文学は伝えないといけない

原爆を語った作品を見ると、ほとんどが破壊力を語っています。しかし、日本には原爆を使わなくてもあらゆる建物を解体してつぶしてきた。そんなことを語っても意味がない。原爆ドームを見せてくれても意味がない。生命が大事だ。それはまさに池内さんが語った第二軍事革命と第三次軍事革命の違いです。建物を見せても、それが戦争を語ることにならない。これから僕らが受ける影響を語ったことにならない。2019年に僕らがこれら生き延びようと子供たちも生き延びられるように環境を保とうと思って語るならば破壊力だけの話ではなくて戦争が悪い、平和がいいということだけではなく、どういう形で僕らの生命がピンポイントで攻撃を受けているか。第三軍事革命を細かく見るとこれは戦争の話ではない。この技術はすべてデュアルユースの問題を抱えていて、すべて戦時も平時も使う。核兵器、それに使う材料、平和利用というペテンに隠された原子炉という装置、詐欺の商品として考えられた発電機。何が起きたかという原爆を使わなくても、使われなくても戦争がなくなってもみんな被ばくさせられる。それがすべて第三軍事革命につながっている技術につながっている。戦争避けても被ばくさせられる。戦争を避けても僕らが食べているものが、化け物に変わる。戦争避けても僕らの身体は技術の影響を受けて変わってくる。戦争を避けてもどうしてももとに戻れない生態系の変化が起きている。次の世代、次の次の世代が対処できないところまで行く。

技術の革新で絶滅した動物を蘇らせる、あるいは人工的に遺伝子をつくることができます。残念ながらマンモスを蘇してもどこで飼うのか。野生動物が生きていける環境がこの地球上にない。ケニアに明日行くが、国立公園になっている自然保護区があるが、そこにいるゾウや動物は全員チップを埋め込ませています。だから野生動物なんかいない。環境に支えられている生命が、日に日に減っていく。技術はいろいろなことを可能にしてくれるが、病気を治したりするが、全部絵に描いた餅です。全部詐欺なんです。劣化するんです。被ばくさせられています。環境失っています。子供たちに渡す未来はゼロ。技術革新はよく語られるが、問題はその技術革新と比べものにならないくらい環境を劣化させています。そこを文学が伝えていかなければいけないところかもしてません。